

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	22-019	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名（原題／訳）		
<p>Labor force status as a buffer against mortality risks associated with alcohol consumption: A study of adult U.S. women, 2001-2015</p> <p>飲酒量に関連した死亡リスクに対する緩衝要因としての労働力状況：米国の成人女性を対象とした研究 2001年～2015年</p>		
執筆者		
Masum M, Sparks J.		
掲載誌		
Prev Med. 2022 Aug;161:107139. doi: 10.1016/j.ypmed.2022.107139.		
キーワード		PMID
飲酒、労働の有無、女性、全死因死亡率、精神的苦痛、NHIS-LMF		35809823
要 旨		
<p>目的：女性の労働力参加、飲酒パターン、死亡リスクとの関連は不明である。本研究では、米国の女性において、労働力の有無と飲酒を考慮した全死因死亡リスクを評価した。</p> <p>方法：2001～2015年の National Health Interview Survey-Linked Mortality Files (NHIS-LMF) における 25～65 歳の女性 (n = 147,714) で、5725 人の死亡を含むデータを用いた。離散時間ハザードモデルを用いて、労働力、飲酒と死亡の関連性を検討し、量的および観察的バイアスを制限するために、調査設計に基づく重み付け調整 (Complex survey-weight) と未測定の変数因子が曝露とアウトカムに及ぼす影響の大きさを表す指標である E-Value の評価を行った。</p> <p>結果：飲酒と労働力の有無は、ともに実質的な死亡リスクにつながっており、失業中の女性 (HR 2.15、95%CI 1.18-3.91) および労働力のない女性 (HR 2.38、95%CI 1.87-3.01) では統計的に有意な死亡リスクが示された。層別モデルでは、非ヒスパニック系黒人 (HR 1.48、95%CI 1.30-1.67) およびアジア人 (HR 1.93、95%CI 1.54-2.44) は、就業の影響によって生じる死亡リスクが高くなることが示された。また心理的苦痛が高い女性は、労働力がない場合に全死因死亡リスクが 26%高くなった。</p> <p>結論：本研究の米国の全国代表大規模サンプルを用いた検討により、労働力がない女性と無職の女性は飲酒習慣の影響を受けやすく、就業していることが死亡リスクの低下と関連していることが明らかになった。今後はより新しいデータや因果関係モデル化の手法、死亡率追跡期間の延長などを用いて、原因別死亡率、性別役割分担と規範、失業の理由、併存疾患などに焦点を当てた研究が必要である。</p>		